

科目名	ソーシャルワーク実習 A					単位	4.0
担当教員	伊東 真理子						
授業形態	実技・実習	開講期間	集中	配当年次	3	授業番号	9001

●授業のテーマ

ソーシャルワークの実践的理解、総合的な対応能力の修得

●到達目標

実習先での職務を積極的に遂行し、ソーシャルワークを中心とする知識・実践的な技術等を体得する。現場における様々な職務のなかで、社会福祉士と他職種との連携のあり方やその実際を理解する。社会福祉士に求められる総合的な能力を実践的に修得し、各自の学習・成長課題を明らかにする。

●学習内容(授業概要)

各種現場で、主に実習先指導者からの助言・指導を受けながら実際の職務に加わり、体験的に学ぶ。とくにソーシャルワークに係わる知識・技術を具体的・实际的に理解し、社会福祉士に必要とされる対応能力を修得する。

実習期間中には、本学の指導担当教員が巡回訪問し、実習先指導者の協力も得ながら実習内容の充実に向けた指導・調整を行う。

●学習内容(授業計画)

実習時間は計180時間(以上)とし、配属する実習先において120時間と60時間(以上)に区分して行う。

学生は、下記の事項について実習指導者の指導を受ける。

- ア. 実習先の利用者やその関係者、職員、住民等とのコミュニケーション、円滑な人間関係の形成。
- イ. 利用者理解とその需要の把握にもとづく支援計画の作成。
- ウ. 利用者やその関係者との援助関係の形成。
- エ. 利用者やその関係者への権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価。
- オ. 多職種連携など支援におけるチームアプローチの実際。
- カ. 社会福祉士としての職業倫理、職員の就業規定等への理解及び職員の一員としての役割・責任への理解。
- キ. 実習先の経営やサービスの管理運営の実際。
- ク. 実習先の地域社会における存在意義への理解、地域社会へのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

担当教員は、巡回指導等により学生の実習状況を把握して個別指導を行うとともに、実習先指導者との連絡・調整を図る。

●準備学習・事後学習の内容

もっとも重要な準備は、自分の実習課題を鮮明にし、それを実習先の業務の特徴に即してどのような場面から学び深めるのかのイメージを作っておくことであり、必要とされる知識も身につける。事後には、得られた個人情報等の扱いに留意しながら、具体的な経験・記録を整理し、後に深めるポイントをまとめる。そこでは、自分の成果となる事柄と同時に、反省点や今後に残された疑問、自分の力量向上に向けた課題についてもふり返っておく。

●成績評価方法・基準

以下の点を指標として総合評価する。

- ・実習計画の追求と成果 …約3割
- ・実習先の職務への理解と遂行…約3割
- ・実習先指導者による評価 …約4割

●テキスト（必携）

特に用いない。

●参考文献／その他

（実習に必携するものとして）

- 『ソーシャルワーク実習の手引き』『ソーシャルワーク実習記録』
- その他、授業時や実習先から配付された資料・プリント等

●履修上の注意

実習先の事業は多様な職種の協働・チームによって担われており、実習生も様々な部署・職務を経験することが多い。ソーシャルワークや社会福祉士による専門業務の意義・役割については、それに直接触れて学べる機会だけでなく、他の職務を遂行したり、利用者の生活や介護・保育等の支援場面に接する中から間接的・応用的に学び取る姿勢が大切である。